

オノマトペの 魅力と不思議

聴講無料
要事前申し込み

13:00 開会挨拶 影山太郎 (国立国語研究所長)
趣旨説明 窪菌晴夫 (国立国語研究所副所長)

13:15 〈司会 窪菌晴夫〉
報告1 オノマトペの意味は変化するか?
小野正弘 (明治大学)

報告2 オノマトペにも方言があるか?
竹田晃子 (立命館大学)

14:15 〈休憩〉

14:30 報告3 外国語にもオノマトペはあるか?
秋田喜美 (名古屋大学)

報告4 外国人は日本語のオノマトペを使えるか?
岩崎典子 (ロンドン大学SOAS)

報告5 「もふもふ」はどうやって生まれたか?
坂本真樹 (電気通信大学)

16:00 〈パネルディスカッション〉
コーディネーター 窪菌
パネリスト 小野、竹田、秋田、岩崎、坂本

16:50 閉会挨拶 滝沢直宏 (立命館大学大学院言語教育情報研究科長)

◎主催……

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

◎共催……

立命館大学大学院言語教育情報研究科

国立国語研究所第11回NINJALフォーラム

オノマトペの 魅力と不思議

日本語は「ゲラゲラ笑う」「メソメソ泣く」のように、オノマトペ(擬音語、擬態語)をととても好む言語だといわれています。「ガラガラ」(赤ちゃんのおもちゃ)を筆頭に、「ガチャポン」や「ガリガリ君」(商品名)、「ピカチュウ」や「ひこにゃん」(キャラクター名)、「ペンペン草」「ミンミンゼミ」「ガラガラヘビ」(動植物名)等々、オノマトペに由来している語がたくさんあります。子どもの童謡にも「ワンワン」や「ニャンニャン」などのオノマトペが不可欠です。

その一方で、謎が多いのもオノマトペの特徴です。そもそも日本語にオノマトペが多いのはなぜでしょう。その意味や役割は昔から変わらなかったのでしょうか。オノマトペにも方言があるのでしょうか。また外国語にもオノマトペはあるのでしょうか。外国人が日本語を学ぶ際に日本語のオノマトペはどのような障壁となるのでしょうか。さらには大人のコミュニケーションではどのような役割を果たしているのでしょうか。

このフォーラムでは、このような疑問をもとにオノマトペをさまざまな観点から考察し、日本語を豊かにしていると言われるオノマトペの魅力と謎に迫ります。

●お申込み方法……

国立国語研究所ホームページ

(<https://events.ninjal.ac.jp/onomatope2017/>)

からお申込みください。



入場無料、事前申込制。定員400名。

(先着順。定員になり次第、受付を締め切ります。)

●問い合わせ先……

国立国語研究所 研究推進課

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

042-540-4300 (代) (平日: 9:00 ~ 17:30)



●立命館大学大阪いばらきキャンパスへのアクセス

JR「茨木駅」下車、徒歩約5分

阪急京都線「南茨木駅」下車、徒歩約10分

大阪モノレール「宇野辺駅」下車、徒歩7分